

# シロイチモジヨトウ情報

平成28年10月4日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 1 形態及び発生生態

成虫は体長約12mmの暗灰褐色で、小型の蛾です（図1）。卵は黄褐色で約0.5mmのまんじゅう型をしており、表面は灰褐色の鱗毛で覆われます。幼虫の体色は多様で、緑色から黒紺色まで個体差が大きいです。老齢幼虫になると、腹部の側面の線が白く、明瞭になり、体長約30mmとなります（図2）。蛹は赤褐色で体長は約15mmです。

孵化後しばらくは集団で生息しますが、齢が進むにつれて次第に分散します。成虫は4月から11月頃に、年4～5回発生します。非常に広食性で50種以上に及びます。キャベツのほか、ハクサイ、ダイコン、ネギ、キュウリ、トマトなど、多くの野菜類や花き類で発生が見られます。



図1 シロイチモジヨトウ（成虫）



図2 シロイチモジヨトウ（幼虫）

## 2 ほ場における発生状況

9月下旬のキャベツほ場における発生量は、平年に比べ多い状況です。また、発生ほ場率も高くなっています。

## 3 フェロモントラップにおける誘殺状況

豊橋市と田原市のキャベツほ場に設置したフェロモントラップにおける誘殺数は7月以降、平年に比べ、多い状況が続いています（図3）。

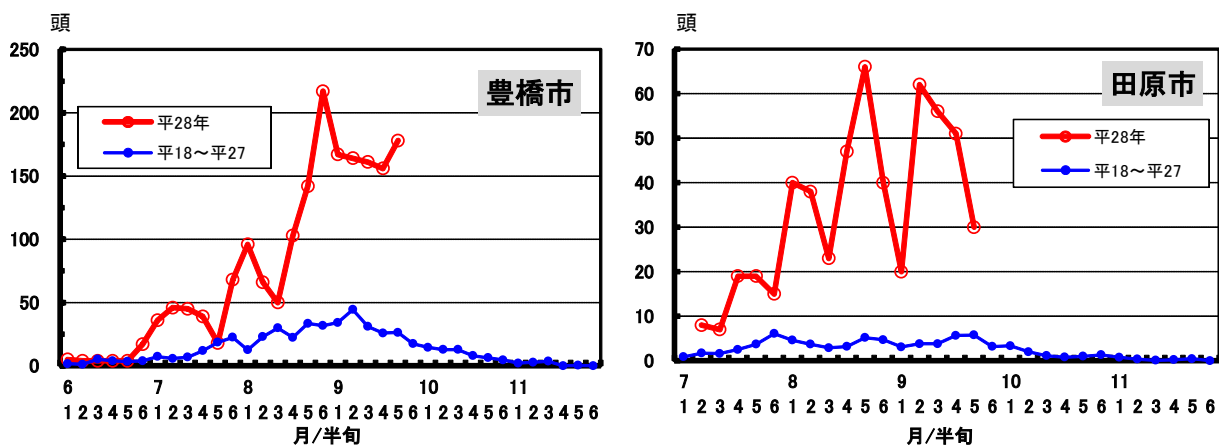


図3 フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺状況

#### 4 今後の発生予測

名古屋地方気象台9月29日発表の1か月予報によると、向こう1か月の平均気温は高い見込みであり、本虫の増殖に好適な気候が続くと考えられます。

なお、本虫は11月頃までフェロモントラップにおいて成虫が誘殺され、発生が続く場合があるので、注意が必要です（図4）。

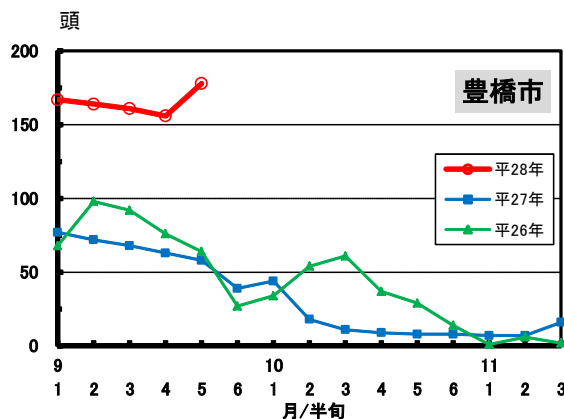


図4 フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺状況 (直近3年の9月第1半旬から11月第3半旬まで)

#### 5 防除対策

本虫は中齢期以降になると薬剤の効果が劣ることがあるので、ほ場での発生状況をよく観察し、適用のある農薬で若齢期のうちに防除しましょう。

本虫は広食性で、雑草などにも寄生しているため、ほ場周辺の雑草を除去しましょう。

表 シロイチモジヨトウに対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	系統
キャベツ	コテツフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内	ピロール
野菜類	デルフィン顆粒水和剤	1000倍	発生初期但し、収穫前日まで	-	B T
野菜類 (はくさいを除く)	ゼンターリ顆粒水和剤	1000倍	発生初期但し、収穫前日まで	-	B T

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。